

## 飛騨農林事務所の普及活動状況（飛騨版）

令和元年7月25日現在

### 今月の重点活動

#### ■秋作スナップエンドウ 栽培研修会を開催！

飛騨地域では、近年スナップエンドウの生産者が増加している。多くは、春播種・初夏出荷で栽培を行っているが、盛夏播種・秋出荷（以下、秋作スナップエンドウ）に取り組む生産者も増えてつある。

7月2日（火）、丹生川蔬菜出荷組合野菜部会の栽培研修会が開催され、秋作スナップエンドウ作付け予定の生産者が出席した。

研修会では農業普及課から圃場準備、株の整理方法、病害虫防除等について説明を行い、播種時期の統一を図ることができた。また、全農岐阜、JAから全国的な販売動向や栽培管理について説明が行われた。

スナップエンドウは、野菜第3品目として丹生川町だけではなく、飛騨地域全体でも注目されており、農業普及課では今後も安定生産、品質向上等に向けた取り組みを支援する。



【栽培研修会の様子】

### 多様な担い手づくり

#### ■担い手 岐阜県農政部次長と飛騨の農業について語る～指導農業士夏季経営研修会～

7月11日（木）、高山市内において「夏季経営研修会」（指導農業士会主催）を開催し、岐阜県農政部次長をはじめ、指導農業士夫婦及び関係機関から38名が出席した。

第1部の現地視察では、畜産、ハウレンソウの指導農業士2名と長期研修後に昨年度就農したハウレンソウ農家の経営状況を視察した。第2部の室内研修では、「岐阜県における農業振興について」と題して雨宮農政部次長からの講演、その後、各市、JAから農業振興施策等について情報提供を頂いた。

第3部の交流会では、担い手関係や各種補助事業、農業施策等について活発な意見交換がなされた。

農業普及課では、指導農業士の経営能力の向上や組織強化につながる活動支援を行っている。



【農政部次長の講演】

## 売れるブランドづくり

### ■水稲 **JGAP（穀物2016）認証を取得**

昨年度からJGAP認証取得に取り組んでいる高山市の（株）アグリランドは、5月にJGAPの審査を受け、指摘があった改善点を是正し、JGAP認証取得に至った。

同法人は、昨年度、県のGAPアドバイザー派遣事業で外部コンサルを受け、また、県の補助事業を活用し、ライスセンター等の施設改修を行い、適合基準を満たせるよう整えた。農業普及課は、審査に向けた指導と審査後の指摘事項にかかる改善方法についてアドバイスをを行い、今回の認証に至った。今後も、農業普及課では管内のGAPの取り組みを拡大するため、支援を行っていく。



【交付された登録証明書と皆さん】

### ■キャベツ・だいこん **キャベツ出荷目ぞろえ会**

7月10日（水）にダナ集荷場にて、出荷組合・飛騨農林事務所・全農・JAひだ販売戦略課・荘川支店が参加して、出荷目ぞろえ会が行われました。飛騨農林事務所ではキャベツに続いて栽培されるダイコンに甚大な被害を及ぼすキスジノミハムシの発生状況と対策や農薬の詳しい特性を記した資料を配布し、安全かつ効率的な防除ができるようにしました。今年は冷涼で寡雨の気候が続き、生育がやや遅れ、例年より遅い時期の出荷となりました。ダナの圃場はすべて1200mの高標高地にあり、じっくり生育するので、重い高品質のキャベツが生産されています。



【できました！新キャベツ】

### ■白川村 **白川郷美味しいお米プロジェクトが発動**

白川村では、村内産米の品質向上と地産地消の推進のため、「白川郷美味しいお米プロジェクト」を立ち上げ、その第一弾として食味向上に関する講演会を7月8日（月）に開催した。

講演会は「日本一美味しいお米づくりの秘密」と題して村の主催で行われ、約50名が参加した。講師には食味コンクールの国際大会で多数入賞している高山市上宝町の（株）和仁農園・和仁社長と中山間農業研究所・鍵谷所長を迎え、食味コンクールでの入賞に向けて美味しいお米づくりの方法について研修した。また、「白川村美味しい米づくり研究会」の発足が発表され、会員の募集が通知されるとともに、和仁社長と鍵谷所長が指導者に委嘱された。参加者は熱心に講演に聞き入り、活発な質問が飛び交ったほか、講演会の終了直後に入会申込書を提出した参加者もあり、盛況のうちに終わった。

農業普及課では、プロジェクトの企画段階から支援を行っており、今後も研究会の活動を中心にプロジェクトの成功に向けて支援を継続していく。



【講演会の様子】

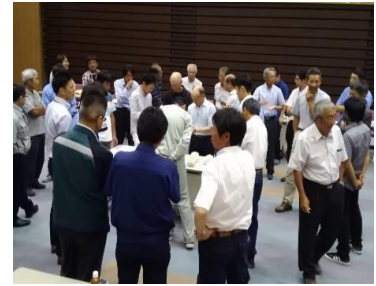
### ■モモ 飛騨桃統一目揃え会を開催

7月23日（火）、J Aひだ果実出荷組合協議会は、7月下旬からの飛騨桃出荷にむけ、飛騨桃統一目揃え会を開催した。

目揃え会では、市場4社の担当者から市場情勢の報告がなされた。他県産モモは、気象災害等の影響で出荷量が減少しており、飛騨桃は市場から大きく期待されている。

その後、熟度や着色などについて出席者全員で目揃えを実施し、出荷基準や出荷要領について確認を行った。

農業普及課では、今後も引き続き関係機関と連携しながら、栽培管理に関する指導助言を行い、モモの安定生産に向けた支援を実施する。



【統一目揃え会の様子】

### ■夏秋トマト 高山トマト部会グループ別研修会実施

高山トマト部会では、部会を5班に分けて活動を行っており、7月17日（水）に第1グループの現地視察研修会を行った。

今年度からトマト部会に入って生産を行う2名の新規就農者のは場を研修場所とし、栽培方法や肥料について意見を出し合った。

参加者からは「新規の方がしっかり管理できているので自分たちも負けずに頑張らないと」といった励まし合う意見が盛んに聞かれた。

今後、各グループでも現地研修会を行い支援していく。



【研修会の様子】

### ■夏秋トマト 県GAP認証にむけ丹生川トマト団体の研修会開催

丹生川野菜出荷組合トマト部会「天空のめぐみ班」では平成20年頃からGAPに取り組んでおり、量販店のプライベートブランドと連携した販売（全農経由）を実施している。この班では今年度中の県GAP認証取得を目指して活動しており、これまで班員個々に農場評価シートを活用したチェックを実施している。

今回の研修会では、個々のチェックで基準に不適合とされた項目について状況を確認した後、その対応を班員全員で検討して班としての取り組みに反映させることとした。

農業普及課では認証取得にむけた支援を継続して行う予定である。



【研修会の様子】



### ■ 夏秋トマト 高山南蔬菜出荷組合青年部でトマト3Sシステム視察研修会実施

7月12日（金）、高山南蔬菜出荷組合青年部では新技術を積極的に学ぶために視察研修が開催された。

研修では昨年度から3Sシステムに取り組んでいる生産者を訪問し、ほ場の視察と視察先の生産者から話を伺った。

出席者は3Sシステムの設備投資や仕立て方法について興味を持っており、自分の栽培に生かそうと積極的に質問をしていた。

農業普及課では、関係機関と連携しながら新技術の導入に向けて生産者を支援していく。



【視察研修の様子】

### ■ ほうれんそう 指導員現地検討会を開催

7月18日（木）、高山地区において普及指導員及びJA営農指導員を対象とした現地検討会を開催した。

ほうれんそう栽培において問題となっているハウレンソウケナガコナダニの蔓延防止策としてカーバムナトリウム塩液剤が適用拡大されたことを受け処理方法について検討した。所定量の薬液を土壌表面に散布し混和処理する専用機の実演も行い、安全に処理するためには防護メガネやマスクの着用が必須であることが確認できた。

農業普及課では、今後もJA営農指導員と連携して、ほうれんそうの安定生産に向け栽培管理指導・支援を行っていく。



【現地検討の様子】

### ■ 農福連携 農福連携に取り組んでいる福祉施設等を視察

6月28日（金）に、ぎふアグリチャレンジ支援センター及び飛騨県事務所福祉課の担当者とともに、農福連携に取り組んでいる飛騨地域の4つの福祉施設及び農家を訪問し、その取り組み状況等を調査した。視察先では、運営体制、利用者（障がい者）の一日の流れ、作業の様子及び利用者へのサポート等について、見学や聞き取りを行った。

飛騨地域では、現在、農作業における労働力の確保が大きな課題となっており、農福連携の推進が期待される場所である。

一方、今回の実態調査によって、農福連携を推進する上で、年間雇用が難しい飛騨では障がい者の働く場面が作りにくい等の飛騨地域ならではの課題等が明らかになってきた。

農業普及課では、今後も関係機関と連携しながら、福祉側と農業者側の情報収集及び情報の提供に努めるとともに、相談や研修会の開催等により、支援を行っていく。



【視察した福祉事務所での作業の様子】